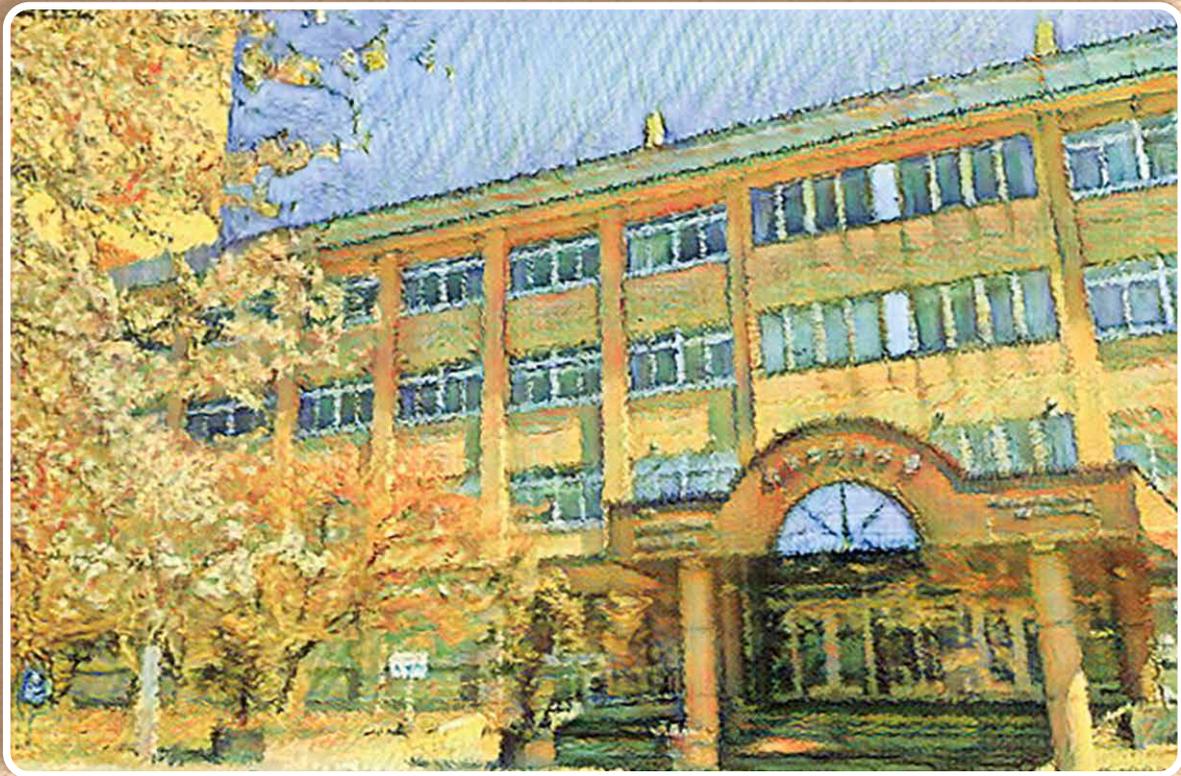




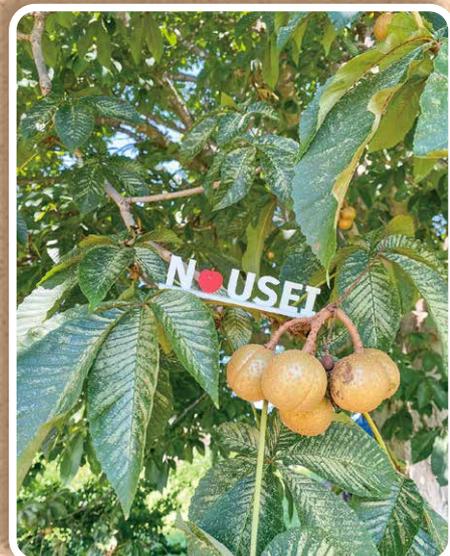
弘大農学生命科学部 同窓会会報

第42号

令和6年5月 発行
発行 弘前大学農学生命科学部同窓会
TEL 0172-36-2111
FAX 0172-39-3750
振替 02340-7-564
印刷 やまと印刷株式会社



画像生成AIによってゴッホ風に加工した学部風景





ごあいさつ

同窓会長 高谷 清孝

同窓生の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、東信行学部長をはじめ学部関係者、学部後援会等の皆様には、同窓会の運営に多大なるご支援・ご協力を賜わり、厚くお礼申し上げます。

令和5年度を振り返りますと、5月に新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが5類へ移行されたことに伴って、様々なイベントが制限のない形で実施されるようになったこともあり、観光などで訪れる国内外からの観光客数が大幅に増加するなど、ようやくコロナ禍前の状態に戻ってきたという思いを強くいたしました。

また、同窓会事業におきましても、4年ぶりに卒業祝賀会を開催し、参加していただいた学部卒業生や研究科修了生に、楽しい思い出をプレゼントできたものと思っています。

さて、農学生命科学部は、昭和30年7月に前身の農学部が当時の文理学部から独立する形で創設され、平成9年度に理学部生物学科が農学部へ移設されたことで農学生命科学部へ改称、そして平成28年度からは5学科に再編成されて今日に至っています。

一方、同窓会は、農学部創設の翌年に設立され、現在は、同窓会報の発行や学部校内整備への協賛、卒業祝賀会の共催などの事業に取り組んでいます。

このような中、弘前大学では、令和5年5月に「学生の愛校心醸成」と「卒業生とのネットワーク強化」を図ることを目的に「弘前大学校愛会」

を創設し、令和6年度からスタートさせました。

その内容につきましては、同窓会ホームページに掲載している令和5年7月開催の総会資料などからご確認いただければと思いますが、総会において対応を協議し、出席者全員の賛同により参画することに決定いたしました。

これにより、令和6年度以降は、これまで皆様から納入いただいていた年会費の徴収は行わず、弘前大学基金へご寄附いただくことで、大学から応分の支援を受けて活動する仕組みに変更することになります。

どうか皆様には、「弘前大学校愛会」へご理解を賜りますとともに、年会費に代わるものとして同額程度を弘前大学基金へご寄附くださるよう、よろしくお願い申し上げます。

また、ご意見や支部同窓会の活動状況などの情報につきましては、引き続き事務局へお寄せくださるようお願いします。

結びに、令和7年には学部創設70周年を迎えますが、今後、学部から何らかの要請があった場合は、可能な範囲で対応して参りたいと考えておりますので、その際のご協力につきましてもよろしくお願いいたします。

末筆ながら、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。





コロナ禍のあと

農学生命科学部長 東 信 行

令和6年4月から農学生命科学部長を継続することになりました。任期は2年になりますので、改めましてよろしくお願いいたします。

同窓会の皆様並びに関係者の皆様には、同窓会の運営にご支援、ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

本年度からは弘前大学の同窓会組織が大きく様変わりして、弘前大学校愛会として全学組織がスタートしました。これは今まで以上に学生と卒業生とのネットワークを強化して、交流を促進しようというものです。新たに入学した学生に自動的に入会してもらうもので、学部同窓会がなくなるわけではありません。旧農学部及び農学生命科学部の同窓会組織は学内でも活動が活発な組織でしたが、今後よりいっそう存在感が増してくることを期待しています。

昨年途中より制度的にコロナ禍が終息し、学生たちにも通常の大学生活をと、一息ついていたところでした。しかしながら、年明早々に能登の地震による大きな被害があり、続くように台湾での地震と、自然災害とはなかなか縁が切れないことを再確認させられました。また、温暖化のせいなのか、今年の津軽は例年にないほどの少雪で、春の水不足が懸念されるだけでなく、生態系や農作物への影響も心配なぐらいの気候変動を実感させられています。いま起きている気候の変化は、今後間違いなく新たな災害をうみだし、我々の学部が深く関係する第一次産業へ大きな影響を与えるものだと覚悟しなければなりません。大学の研究は、これまでの一次産業を守るだけではなく、

新たな展開を示唆する羅針盤になる必要があると考えています。そのためにも研究に関する嗅覚を鋭くする必要があり、関連する現場で働いていらっしゃる同窓生のお力を借りる機会がより重要になってきます。

「漠然とした不安」が人の心を蝕むことが指摘されています。問題点を洗い出し、一つ一つ解決することこそが研究を担う大学の役割だと思います。そして、教育の現場ではきちんとゴールを見せ、学生を不安にさせないことを心掛けたいと思います。

異次元の金融緩和が終わり、物価上昇を実感するようになりました。賃金上昇はまだそれに追いつかず、学生たちの生活も相対的に苦しさを増していると聞こえてきます。大学自体も少子化による学生の確保や法人化とともに始まった効率化（毎年の交付金の減額）、光熱水費や人件費の上昇などの財政的な問題等々、厳しい状況が続いています。

現状は、間違いなく同窓会のご支援が必要な状況にあります。いま一度、弘前大学農学生命科学部に目をむけて頂き、叱咤激励とご指導をいただきたくお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



卒業生の活躍



卒業後の私と弘前大学

佐々木 悠 人

自分の学業に限界を感じ、私は弘前大学農学生命科学部応用生命工学科（殿内暁夫先生の研究室）を2004年3月になんとか卒業させていただきました。そんな私の現在に至るまでの社会人生活をご紹介します。

昔、獣医になりたかったことと、福利厚生や給与面が良かったことから、ホルモン製剤や動物薬に強みを持っているあすか製薬（旧：帝国臓器製薬）にMR（医師、薬剤師等に医薬品情報伝達活動をする営業職）として就職し、熊本に配属されました。妻は、農学生命科学部（黒尾正樹先生の研究室）を卒業し、九州大学大学院 農学研究院で学位を取得した後に結婚しました。私の転勤にあわせて、熊本大学、東京大学、順天堂大学、東北大学と移動し、学生時代に学んだことを活かして実験支援をして楽しそうに働いています。どの大学でも即戦力として活躍できるキャリアを築けているのは、大学でしっかりした基礎を学んだおかげなのだと思います。二人の子供に恵まれ、家族全員で弘前に旅行し、大学正門前や暗門の滝で写真を撮ったり、私が世界で一番おいしいと思っている「かわしまカレー」を食べさせたりと、自分たちのルーツを子供に引き継がせています。将来は理系に育てようと日夜奮闘しておりますので、ご縁がありましたら何卒ご指導よろしく願います。

熊本でMRとして4年間勤務した後に、人事部で研修や採用活動に従事することになりました。世界を代表する糖尿病のリーディングカンパニーで活躍している同級生（奥野智旦先生の研究室出身）のような人材を採用しようと、弘前大学への

採用活動をしたいと会社に懇願したこともありました。採用に携わっている間に3名が入社してくれました。2名は農生出身で、本社で動物用医薬品を担当し、今も活躍しています。弘前大学の学生は大人しい学生の多い印象ですが、基礎のしっかりした真面目な学生が多く、人材の宝庫と考え、採用に注力しました。

その後MRにもどり、東京医科歯科大学や東京都中心エリアを担当し、産婦人科、消化器科を中心に営業活動を行いました。MRと聞くと、接待や気難しい先生の相手で大変そうなイメージがあるかもしれませんが、基礎から臨床までを幅広く学んだ先生方とお話することは、自分の知識も向上するだけでなく、人生にも影響を与えるような言葉をかけてもらえることもありました。特に産婦人科ですが、周産期、思春期、性成熟期、更年期、老年期に至るまで、女性ホルモンは体に大きな影響を体にも与えています。昨今も、少子化、不妊治療、女性活躍、フェムテックなど社会的な話題には事欠きませんが、自社医薬品だけでなく、社会情勢、政府方針、最新テクノロジーなど勉強の毎日です。勉強が苦手な社会人を選んだはずでしたが、今はそんな苦勞を楽しんでいます。

その後、営業所長として宮城県、山形県の責任者を3年半担当しました。その際は、弘前大学医学部ご出身の蓮尾豊先生（あおもり女性ヘルスケア研究所所長）を通して、東北の子供たちへの性教育について関わるがありました。以前東北地域は全国的に中絶率が高かったのですが、県市町村、学校と産婦人科の先生方が協力することで大きく改善しており、他県の先生方からも注目さ

れております。取り扱いが難しい内容ですが、子供を育てる親としては、大切なことだと実感し、家族内でも話すことがあります。

現在の私は、ウィズ・パートナーズという会社に出向して、投資を通じてヘルスケアに関わっています。41歳の時に、新しいことにチャレンジしてみたいと思い、社内公募に手を挙げました。私たちのチームの主な仕事は、ヘルスケア関連のファンドの立ち上げ、投資を検討する会社のデューデリジェンス（企業調査）の実施、投資会社への支援、ファンドへの出資依頼です。チームメンバーには、武田薬品、理化学研究所出身者など多くの研究者が在籍しており、投資先企業にも多くの研究者がおります。国内外問わず顧客がいるので、専門知識だけでなく、語学にも堪能なメンバーばかりで、私も一念発起してリスキリングとして英会話を始めています。何歳になっても、新しいことにチャレンジできるのは楽しいですね。

投資先の大きな企業としては、非臨床CRO（医薬品開発業務受託機関）アクセリードと国内初のmRNAに特化したCDMO（医薬品製造受託機関）アルカリスという企業があります。アクセリードは、武田薬品からカーブアウトされた非臨床のCROです。医薬品の研究開発には膨大な時間と費用がかかり、年々増えております。半導体産業

では、日本は垂直統合型にこだわり、水平分業化に失敗し、大きく衰退してしまいました。今回のコロナ禍においても、自国開発のワクチンは遅れ、安全保障、費用などの点で大きな問題になりました。そのような問題意識から、日本の医薬品産業のさらなる発展のために、医薬品開発の水平分業を担う2社を成長させようと取り組んでいます。ワクチンについては様々なご意見もあるかもしれませんが、医療においてmRNAという新しいモダリティが追加されたことで、今まで治療できなかった病気にも応用できると期待されています。アルカリスは、アカデミアからの実験に必要なmRNA合成などにオーダーメイドで対応でき、mRNAの発展に寄与するべく取り組んでいます。私はいずれ出向元に戻る予定ですが、ベンチャー企業と関わっていることは新鮮で、新しい道を選んでよかったです。

学生時代は探検部（2024年に創立50周年を迎えます）に所属していました。今でも登山をしたり、部活の仲間と集まったりしています。

正直なんとなく入学した弘前大学だったので、振り返ってみると、多くの弘前大学出身者に支えられており、入学して本当によかったです。これからの農学生命科学部の発展を心より応援しております。

弘前大学校愛会について

学生・卒業生とのネットワーク形成を目的とした「弘前大学校愛会」が令和6年4月よりスタートします。既存の学部同窓会の同窓会員は特別会員として同事業に参画することになりました。これに伴い、会費制から寄附金制度に移行します。寄附金には税制上の優遇措置が受けられます。同窓会員の皆様には、これまでの会費（3,000円/年）と同額程度をご寄附いただけますようお願い申し上げます。詳しくはホームページ（<https://hirosaki-u-kouaikai.alumnet.jp/>）をご覧ください。税制上の優遇措置については、こちら（<https://fund.hirosaki-u.ac.jp/tax.html>）をご覧ください。



弘前大学校愛会 HP



税制上の優遇措置
について



研究室だより

山間地環境計画学研究室

地域環境工学科 講師 ツォウ 鄒 チンイン 青穎

山間地環境計画学研究室は、白神山地の世界遺産登録に尽力された牧田肇先生と、その後に着任された檜垣大助先生より私に受け継がれてきました。2024年現在、着任から8年目を迎え、岩手連大博士課程2名、修士課程1名、学部学生7名、そして客員研究員1名というメンバーで研究室を運営しています。

当研究室では、山間地域において持続的な環境保全と利用、そしてそれに伴う防災を目指した研究を行っています。研究の柱は、(1) 土砂災害の発生場である崩壊や地すべりなどの地形・地質特徴を解明すること、および(2) その理解に基づいた災害軽減策や地域の基盤整備に関わる検討、そして(3) 地すべり地の土地環境の観光・教育的な利用と保全に関する研究です。主な調査対象地域は、湿潤で地殻変動が活発なアジア地域にある代表的な造山帯であり、具体的には白神山地、台湾中央山脈及びネパールヒマラヤです。「Think Globally, Act locally」を基本に、フィールドワークで得た生のデータを大切にし、これらの地域での取り組みが国際的な問題の解決に寄与することを目指しています。

土砂災害の発生場の地形・地質特性を定量的に把握するために、数値標高データを利用して地形を定量的に解析しています。これに加え、衛星画像、空中写真、および航空レーザー計測データを活用して、土砂災害になり得る箇所を同定しています。さらに、地質踏査や数値計算を組み合わせ、これらの地質構造に関する調査・解析を行っています。そして、広域的な斜面災害の発生場を予測するために、地形発達史の観点から河川侵食の進行が周辺斜面の不安定化にどのように影響しているかを調査しています。また、この過程が地すべりや崩壊の分布をどのように規制しているか研究を進めています。また、地すべりの変動プロセスの実態やその時空間的な発生履歴情報の精度向上を目指して、白神山地を含む東北地域に調査地を選定し、各調査地において地すべりの動態観

測が可能な全世界測位システムを設置し、樹木年輪年代学的手法を活用して、自然環境保全と防災対策の施策に関するデータを収集し分析をしています。さらに、民間企業との共同研究を通じて計測精度の高い手法の開発にも取り組んでいます。さらに、白神山地の地すべり地を対象に、地域の環境教育・観光資源となり得る地すべり地がもつ自然環境について、地学や地生態学的な視点から研究を進めています。さらに、それらの研究成果を来訪者に理解しやすいように案内資料を作成し、また、ガイドが現地での活動に役立つ教材を開発するなど各自治体との協力を通じて研究成果の普及・活用にも努めています。

地球温暖化の影響により、豪雨の激甚化が進むことで土砂災害の頻発化が予測されます。国土強靱化に資する農山村地域および農業生産基盤の整備・保全や被災地の生活基盤の復興への対応として、私たちの基礎研究・応用研究が役立つように取り組み、そして、地域発展、環境保全・防災に貢献できるような人材の育成に今後も力を入れていきます。



写真1 2022年豪雨で起った地すべりの調査(白神山地)



写真2 現地調査の様子

定年退職教員からの寄稿



弘前大学での29年の思い出

地域環境工学科 佐々木 長 市

弘前に赴任してこの3月で29年と1か月になります。桜の美しい弘前公園で学生と花見をしたことは忘れがたい思い出です。今では岩木山を見るたびに、故郷に戻ってきた感慨に浸る日々となっております。住めば都とはこのような感情をもつことなのでしょう。赴任当初は、空梅雨に感動しかつ「ねぷたまつり」が過ぎると秋冷えを感じたものですが、今では温暖化の影響でしょうか9月まで暑く、びっくりしています。思い出は、数えきれないものとなっておりますが、思いつくままに述べたいと思います。

学生との教育研究を通じた思い出は、3点ほどになります。農地工学という分野を担当し、41年（宮城現農業短期大学に11年11か月勤務）になりますが、一貫して成層水田の浸透型の研究を続けてこられたのは学部学生時の恩師や学生のお陰と感謝しております。時にうまく研究が進まないことも多々あり、学生と共に悩んだことは大いに励みになりました。博士課程の留学生と日本人の学生との協力もごちないながらも何とかやってこられたとホッとしております。また、土の間隙研究では、弥生水田の耕起の実施の可能性を示唆できたこと（白黒写真）や250万年前に堆積した黄土高原の土に植物の根の作った穴が残っていることを学生と解明できたことは教師冥利に尽きると思っております。また、弘前大学白神自然環境研究所所長として、白神山地の土壌断面に中国の長白山の火山灰の層を発見し、モノリスとして白神自然観察園に展示できたこと、かつ現在まで続く白神学入門という教養科目の開設をできたことは大変幸運なことと思っております。

農学生命科学部の学部長も8年ほど務めさせていただきました。この間、学部創設60周年記念式典を学部同窓会及び後援会の皆様の協力のもとに



田舎館田んぼアートの稲刈り

盛大に開催できたことに深く感謝申し上げます。また、学部改組や大学院改組などの際にも同窓生の皆様には大いに助けられたことに深く感謝申し上げます。改組では、毎年海外研修に学生を70名送り出すということや食品学の教員や国際的な経済取引の強化のための教員補充を実施し、地域に貢献できることを目指しました。こうした取り組みも大いに同窓生の皆様にお世話になったと感じております。

また、留学生と田舎館の田植えや稲刈り、白神山地の登山など良い思い出の教員生活であったことを思い出します。

最後になりましたが、同窓会及び同窓生の今後の大なる発展を祈念しております。



教養科目の本



金木水田作土層の孔隙

定年退職教員からの寄稿



弘前大学で得た様々なご縁

分子生命科学科 吉田 孝

弘前には2000年の2月に参りました。仙台から初めて来た日、学園町の駐車場で車が雪に埋もれて動けなくなったのを覚えています。私が呼ばれた細胞工学講座は大講座で、浅田芳宏先生の微生物工学研究室は農生校舎の2階、今のコラボ連絡通路付近にありました。その後農生校舎の大改修があり、大町鉄雄先生がコラボ5階、私が6階に入り、いわゆるタコ足研究室になりました。コラボ弘大ビルは半分しか完成しておらず、エレベーターも1基でした。農学生命科学部は1997年に改組してまだ4年目、インフラも組織も大変革の時期でした。

着任当初は糸状菌（カビ類）の糖質分解酵素を研究していました。私の専門の α -マンノシダーゼは糖鎖生物学分野の糖タンパク質合成で調べられている酵素でした。オリゴ糖の分解様式を調べるには蛍光検出器の付いたHPLC装置が必要で、教育学部の加藤陽治先生の研究室に出入りさせて頂きました。マウスやヒトにはこの酵素が2タイプありますが、酵母には1つしかないと言われていました。醸造に使う麹カビではどうかと酒類総研の赤尾氏らと調べたところ、このカビは両タイプの酵素を持つ事がわかりました。この発見を発表したオランダの学会で、要旨集の中に同じ弘前大学の名前を見つけました。当時、遠藤正彦先生、高垣啓一先生らが率いる医学部生化学第一講座のチームで、ホタテガイのエンド β キシロシダーゼという酵素を使ってプロテオグリカン(PG)の糖鎖を移し替えたという、信じられない

ような発表でした。会場は満席で立ち見がいるほどの熱気でした。当時、それはまさに世界に1つしかない酵素で、ホタテガイのウロ（中腸線）にそんな酵素があるとは驚きでした。その後、学生さんをお願いしてあれこれとウロの酵素を調べましたが、奇跡の酵素・エンド β キシロシダーゼは結局見つからずお預けとなりました。この不思議な酵素は今も解明されていません。

ホタテは思わぬ縁をもたらし、2003年に高垣啓一先生の主導するプロテオグリカン(PG)応用研究プロジェクトに加えて頂きました。当時、健康食品などに使われるPGはサケの鼻軟骨から抽出されていましたが、自分が扱ったのはサメでした。サメは全骨格が軟骨なので素材として有望でした。サメPGを分析してみると、サケ鼻軟骨のものと同等品であるとわかりました。さらに研究を進めていくと、タイやヒラメなど硬骨魚の骨からもPGが得られることもわかりました。遍く魚の骨にはこのような軟骨多糖が含まれる可能性があります。これは魚食を好む日本人にとって嬉しいことで、魚の骨が体に良い成分を含むことを機会があればアピールして来ました。これからは自分の人生で実践して行くつもりです。

弘前で20余年間には大震災やコロナ禍など大変なことがありましたが、自身を振り返れば実に様々なご縁に恵まれた年月でした。今後も弘前大学ならびに農学生命科学部が発展して行くことをお祈りしております。

令和5年度卒業生・修了生の卒業式ならびに就職・進学先

令和6年3月22日に、令和5年度の農学生命科学部卒業証書授与式および大学院農学生命科学研究科の学位記授与式が行われた。今年度の学部卒業生は217名、大学院修士課程修了生は39名で、農学部と農学生命科学部をあわせた卒業生は8,904名、研究科修了生は1,372名となった。

今年は新型コロナウイルスの流行以前とほぼ同じ形で学位授与式が行われた。式典の様子はオンラインでライブ配信された。卒業・修了生には学部に戻り学位記が手渡された。また、祝賀会兼同窓会歓迎会も5年ぶりに開催された。卒業生の多くは、新型コロナウイルスの流行し始めた年に入学した学生であり、入学早々からメディア授業を受け、部活動・サークル活動・アルバイト等、対面の活動を制限されて大学生活を始めることになった。この巣立ちの日がより記憶に残るものであることを期待するとともに、今後のご活躍を祈念する。



本年度の卒業・修了生の就職先および進学先は以下の通りである（括弧内に数字を記入した場合以外は各1名である）。（令和6年3月25日現在）

生物学科

北海道職員（2）、（株）スタッフサービス、（株）日立ソリューションズ東日本、エームサービス（株）、（株）KSK、（株）インフォテック朝日、（株）ジャベル、（株）メガネトップ、（株）日立医薬情報ソリューションズ、（株）農業総合研究所、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林整備センター、黒石市職員、札幌市職員、秋田プリマ食品

（株）、生活協同組合コープあおもり、東色ピグメント（株）、農林水産省 林野庁、留萌市職員、弘前大学大学院（14）、東京大学大学院（3）、京都大学大学院、総合研究大学院大学

分子生命科学科

ライクス（株）、（株）日本政策金融公庫、マルホ（株）、マルヨ水産（株）、（株）プロクレアホール

ディングス、(株) リンクアカデミー、(株) レックス、厚生労働省 青森労働局、生活協同組合連合会大学生協事業連合東北地区、盛岡広域森林組合、青森県警察、東京都職員、福島県警察、北海道職員、明治安田システム・テクノロジー (株)、弘前大学大学院 (17)、京都大学大学院、東京工業大学大学院

食料資源学科

山崎製パン (株) (2)、イオン北海道、イリソ電子工業 (株)、カルビー (株)、パーソルキャリア (株)、ホクレン農業協同組合連合会、ヤマトシステム開発 (株)、わらべや日洋食品 (株)、一般社団法人東北地域づくり協会、(株) BMLフード・サイエンス、(株) アスクゲート、(株) テイクアンドギブ・ニーズ、(株) ニトリ、(株) はま寿司、(株) プリーチ、(株) マイナビ、(株) マツモトキヨシ東日本販売、(株) ロイズコンフェクト、(株) 資生堂、(株) 六花亭、協和キリン (株)、弘前市職員、札幌市農業協同組合、三菱食品 (株)、上北農業加工 (株)、森永乳業北海道 (株)、生活協同組合コープあおもり、青森県警察、青森県職員、草野作工 (株)、地方独立行政法人青森県産業技術センター、日清医療食品 (株)、日本原燃 (株)、日本年金機構、農林水産省 横浜植物防疫所、函館市職員、八戸市職員、菱和設備 (株)、北海道ガス (株)、(有) ドリームズファーム、弘前大学大学院 (5)、静岡県立大学大学院、東京農工大学大学院、北海道大学大学院

国際園芸農学科

青森県職員 (6)、ホクレン農業協同組合連合会 (2)、(株) ワークポート、ソラスト (株)、つがる弘前農業協同組合、パーソルプロセス&テクノロジー (株)、ふらの農業協同組合、宇都宮市職員、(株) I.G.F.、(株) アワーズ、(株) エービーシー・マート、(株) クルコム、(株) ジェイエスピー、(株) ナリカ、(株) ニトリ、(株) ノジマ、(株) プロクレアホールディングス、(株) ユニバース、(株) 七十七銀行、(株) 荘内銀行、(株) 日本アクセス、(株) 福島民報社、(株) 物語コーポレーション、(株) 平山農園、岩手県職員、宮城県公立学校、紅屋商事 (株)、合同会社山久商会、秋北航空サービス (株)、新潟県職員、青森県公立学校、青森県信用保証協会、全国農業協同組合連合会 青森

県本部、島根県職員、農林水産省 動物検疫所、福岡県職員、片山農場、北海道ガス (株)、北海道職員、弘前大学大学院 (4)、千葉大学大学院、東京海洋大学大学院、北海道大学大学院

地域環境工学科

青森県職員 (4)、(株) 竹中土木 (2)、国土交通省 北海道開発局 (2)、農林水産省 (2)、農林水産省 東北農政局 (2)、(株) オオバ、(株) 吉田産業、(株) 鴻池組、環境省 北海道地方環境事務所、国土防災技術 (株)、札幌市職員、秋田県職員、新潟県職員、青森県土地改良事業団体連合会、青森市職員、中央コンサルタンツ (株)、内外エンジニアリング (株)、農林水産省 関東農政局、農林水産省 近畿農政局、北海道公立学校、北海道職員、弘前大学大学院

<大学院農学生命科学研究科修士生>

生物学コース

農林水産省 林野庁 (2)、(株) オープンアップIT エンジニア、アジアクエスト (株)、スマートブルー (株)、一般財団法人公園財団、(株) GRI、(株) アルトナー、(株) ザイエンス、岩手県職員、青森県職員、大和探査技術 (株)、地方独立行政法人青森県産業技術センター、岩手大学大学院、京都大学大学院

分子生命科学コース

アビームコンサルティング (株)、ニプロ (株)、王子ホールディングス (株)、学校法人河合塾、(株) ニトリ、(株) ニプロファーマ、(株) 福田水文センター、協和キリン (株)、協和ファーマケミカル (株)、合同酒精 (株)、青森県公立学校、日本全薬工業 (株)、岩手大学大学院

食料資源学コース

福島県職員、岩手大学大学院

国際園芸農学コース

きのこの森 (有)、つがる食品 (株)、(株) タケエイ、(株) 日立ビルシステム、青森県職員、電源開発 (株)、日の丸交通 (株)

地域環境工学コース

独立行政法人水資源機構、岩手大学大学院

新任教員の自己紹介



相馬 純 助教（白神自然環境研究センター）

2023年4月に白神自然環境研究センターへ助教として着任した相馬と申します。陸生カメムシ類のうち植食性種をおもな対象として分類学的研究をしています。最近では、化石種の系統的位置や寄主植物の利用様式に

も関心があります。着任してから現在まで、青森を中心とした北日本の森林と湿地に生息する昆虫に注目して調査を実施し、興味深い成果を得ています。今後は研究成果の公表や教育普及活動を通じ、社会貢献に邁進する所存です。



DINH Thi Lam (ディン・テイ・ラム) 助教（食料資源学科）

My name is Dinh Thi Lam. I have been appointed to the Faculty of Agriculture and Life Sciences in April 2023. My research is on rice breeding with a functional genomics approach that combines genomics, genetics, and plant physiology with agronomy. The study focusses on enhancing stress tolerance in plant to cope with climate change and food crisis.

Globalization has led to unprecedented levels of change in every area of life with its impact expanding. Whereby it is leading to the universities having to change as growing numbers of international students flow from outside. I believe wider cultural diversity at Hirosaki University will support courses in a wide range of subjects and contribute to international research collaboration with foreign partners as well.



直井 崇 助教（食料資源学科）

2023年4月に農学生命科学部・食料資源学科に着任しました、直井崇と申します。専門は植物病理学で、主にウイルスの病原性や発病機構、植物の防御応答に関する研究を行ってきました。今後はこれまでの研究をさ

らに発展させるとともに、地域社会の植物病害に関する問題にも取り組む所存です。弘前大学は私の母校であり、教員として戻ってくることができて大変嬉しく思っています。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。



ムラノ 千 恵 助教 (生物学科)

令和5年10月付けで、着任いたしました。専門は生態学と野生動物管理学です。人間社会と自然環境の接点である「農地」での、人と野生動物の共存がテーマです。

弘前生まれで、実家はりんご農家です。大学進

学で地元を離れましたが、2015年に家族でUターン。東信行教授のご指導の下、育児をしながら博士課程を修了し、この度の着任となりました。大好きな青森で研究できることを嬉しく思います。どうぞよろしくお願いいたします。



登 島 早 紀 助教 (国際園芸農学科)

2023年12月に着任しました登島早紀(としまさき)と申します。これまでバラ科果樹を中心に成分分析や育種、種内の多様性について研究をしてきました。今後弘前大学では青森特産品のリンゴやラズベリーを利用し

て、アントシアニン等の機能性成分の研究や青森の野生植物を利用した果樹の育種を研究したいと思っています。そして、教育・研究を通して青森の農業の発展に貢献できるよう邁進して参りたいと思います。何卒宜しくお願い致します。



教職員人事

退職 (定年退職) 令和6年3月31日
 佐々木長市 (ささき ちょういち)
 教授 (地域環境工学科)
 吉田 孝 (よしだ たかし)
 教授 (分子生命科学科)

退職 令和6年3月31日
 吉仲 怜 (よしなか さとし)
 助教 (国際園芸農学科)

採用 (新任)

令和5年4月1日
 相馬 純 (そうま じゅん)
 助教 (白神自然環境研究センター)
 DINH Thi Lam (ディン・テイ・ラム)
 助教 (食料資源学科)
 直井 崇 (なおい たかし)
 助教 (食料資源学科)

令和5年10月1日
 ムラノ千恵 (むらの ちえ)
 助教 (生物学科)

令和5年12月1日
 登島 早紀 (としま さき)
 助教 (国際園芸農学科)

令和5-6年度 同窓会総会報告

令和5-6年度総会が、令和5年7月1日15時から弘前大学農学生命科学部203講義室において開催されました。令和3-4年度事業報告および会計報告、令和5-6年度の事業計画、予算および役員案について、事務局より報告と提案がなされ、質疑応答の後、承認されました。

議案1. 令和3-4年度(2021-2022年度)事業報告

令和3年度(2021年度)事業

- R3. 5.19 同窓会報第39号発行
- R3. 5.28 全学同窓会会費(15万500円)の納入
- R3. 6. 1 同窓会役員会及び総会開催(紙上、6月18日まで)
- R3. 9.30 同窓会報第39号他^{注1)}の在学保証人への送付(成績通知表に同梱)
- R3.10. 7 編入学試験合格者への会報第39号他^{注2)}の配布(入学手続き書類に同梱)
- R4. 2.21 総合型入試(I・II型)合格者への会報第39号他^{注2)}の配布(入学手続き書類に同梱)
- R4. 3.15 一般(前期日程)・私費外国人留学生・社会人入試合格者への会報第39号他^{注2)}の配布(入学手続き書類に同梱)
- R4. 3.23 卒業・修了生同窓会入会祝賀会中止
- R4. 3.26 後期日程合格者への会報第39号他^{注2)}の配布(入学手続き書類に同梱)

^{注1)} 会長挨拶状(入会金納入依頼状)・振込用紙・同窓会報39号・全学同窓会報22号

^{注2)} 会長挨拶状(入会案内)・同窓会規約・振込用紙・同窓会報39号・全学同窓会報22号

令和4年度(2022年度)事業

- R4. 5.19 同窓会報第40号発行
- R4. 6. 1 全学同窓会会費(15万500円)の納入

- R4. 9.21 同窓会報第40号他^{注1)}の在学保証人への送付(成績通知表に同梱)
- R4.10. 7 編入学試験合格者への会報第40号他^{注2)}の配布(入学手続き書類に同梱)
- R5. 1.31 同窓会ウェブサイト新サーバー移行
- R5. 2.13 令和3・4年度分母校援助費(43万円)を大学に納入
- R5. 2.20 総合型入試(I・II型)合格者への会報第40号他^{注2)}の配布(入学手続き書類に同梱)
- R5. 3.15 一般(前期日程)・私費外国人留学生・社会人入試合格者への会報第40号他^{注2)}の配布(入学手続き書類に同梱)
- R5. 3.23 卒業・修了生同窓会入会祝賀会中止
- R5. 3.26 後期日程合格者への会報第40号他^{注2)}の配布(入学手続き書類に同梱)

^{注1)} 会長挨拶状(入会金納入依頼状)・振込用紙・同窓会報40号・全学同窓会報23号

^{注2)} 会長挨拶状(入会案内)・同窓会規約・振込用紙・同窓会報40号・全学同窓会報23号

【参考】

令和5年度(2023年度)事業実施状況

- R5. 5.22 同窓会報第41号発行
- R5. 7. 1 同窓会総会開催予定

議案 2. 令和3-4年度(2021-2022年度)収支決算

収 入

単位(円)

帳票区分	項 目	令和3-4年 (2021- 2022) 年度予算 (案)(a)	令和3年 (2021) 年度実績 (b)	令和4年 (2022) 年度実績 (c)	令和3-4年 (2021- 2022) 年度決算 (d)=(b)+(c)	令和元-2 (2019- 2020) 年度決算	予算比 (d)/(a)	摘 要
A	繰越金	2,880,684	2,880,684	-	2,880,684	2,536,215	100%	
B	正会員会費	2,700,000	1,699,000	1,097,000	2,796,000	2,332,000	104%	会費納入者547名 (¥3,000×932口相当)
C	入会費	1,900,000	1,040,000	1,010,000	2,050,000	1,930,000	108%	入会金 10,000円×205名 (2021:104名, 2022:101名)
D	利 息	27	13	17	30	27	111%	
E	そ の 他	0	0	0	0	135,000	0%	
	合 計	7,480,711	5,619,697	2,107,017	7,726,714	6,933,242	103%	

支 出

単位(円)

帳票区分	項 目	令和3-4年 (2021- 2022) 年度予算 (案)(a)	令和3年 (2021) 年度実績 (b)	令和4年 (2022) 年度実績 (c)	令和3-4年 (2021- 2022) 年度決算 (d)=(b)+(c)	令和元-2 (2019- 2020) 年度決算	予算比 (d)/(a)	摘 要
1	会報発行費	3,100,000	1,517,441	1,449,365	2,966,806	2,963,219	96%	
2	卒業祝賀会費	580,000	0	0	0	0	0%	祝賀会中止
3	支部派遣費	20,000	7,000	0	7,000	17,723	35%	同窓生の会合に日本酒
4	母校援助費	430,000	0	430,000	430,000	410,000	100%	2022年度に2年分一括
5	総会経費等	50,000	25,746	0	25,746	192,014	51%	Web開催のため資料の印刷・送付など
6	庶務・管理費	15,000	0	6,270	6,270	12,447	42%	HP更新料
7	通信・印刷費	40,000	0	17,600	17,600	38,340	44%	
8	慶弔費	10,000	0	0	0	0	0%	
9	全学同窓会会費	301,000	150,500	150,500	301,000	301,000	100%	
10	振込手数料	120,000	77,500	56,090	133,590	117,815	111%	2019年(窓口203円・ATM152円) 単年会費のため単純増
11	予備費(繰越)	2,814,711		3,838,702	3,838,702	2,880,684	136%	
	合 計	7,480,711	1,778,187	5,948,527	7,726,714	6,933,242	103%	

(会計監査)

2023年 6月20日

会計処理が適正であると認めます。

監事

齋藤 亮 印(サイン可)

議案 3. 令和5-6年度事業計画(案)

- | | |
|--|---------------------------------------|
| (1) 役員会の開催(紙上) | (5) 全学同窓会会費の納入 |
| (2) 総会の開催(令和5年7月1日、弘前大学農学生命科学部) | (6) 母校への援助 |
| (3) 会報第41および42号の発行(41号は発行済み) | (7) 卒業・修了祝賀会共催(同窓会入会祝賀会も兼ねる)および懇話会の主催 |
| (4) 支部活動の支援(会員情報の提供、通信連絡費の補助、役員や教員の派遣) | (8) その他 |

議案4. 令和5-6年度(2023-2024年度)予算(案)

収 入

単位(円)

帳票区分	項 目	令和5-6年 (2023-2024) 年度予算(案) (a)	令和3-4年 (2021-2022) 年度実績	令和3-4年 (2021-2022) 年度予算 (b)	前期比 (a)/(b)	摘 要
A	繰越金	3,838,702	2,880,684	2,880,684	133%	
B	正会員会費	2,700,000	2,796,000	2,700,000	100%	前期の会費収入¥3,000×932口相当(納入者547名)並みの金額を計上
C	入会費	1,900,000	2,050,000	1,900,000	100%	新制度導入の是非によって変更の可能性あるが、とりあえず前期と同額を計上
D	利 息	30	30	27	111%	実績をもとに
E	その他	0	0	0	0%	総会時の懇親会・寄附等を積算 →開催予定なし
	合 計	8,438,732	7,726,714	7,480,711	113%	

支 出

単位(円)

帳票区分	項 目	令和5-6年 (2023-2024) 年度予算(案) (a)	令和3-4年 (2021-2022) 年度実績	令和3-4年 (2021-2022) 年度予算 (b)	前期比 (a)/(b)	摘 要
1	会報発行費	3,100,000	2,966,806	3,100,000	100%	同窓生の自然増と異動先不明の数がほぼ同じなので、前期と同額を計上
2	卒業祝賀会費	580,000	0	580,000	100%	実施は未定だが同額を計上
3	支部派遣費	20,000	7,000	20,000	100%	実施は未定だが同額を計上
4	母校援助費	430,000	430,000	430,000	100%	R3-4年度会費収入の1割(42.62万円)+コピー代≒43万円をR.4-5年度分として納入
5	総会経費等	30,000	25,746	50,000	60%	R.3-4年度実績から算出
6	庶務・管理費	15,000	6,270	15,000	100%	R.3-4年度実績から算出
7	通信・印刷費	20,000	17,600	40,000	50%	R.3-4年度実績から算出
8	慶弔費	10,000	0	10,000	100%	
9	全学同窓会会費	301,000	301,000	301,000	100%	新制度導入の是非によって変更の可能性有り
10	振込手数料	130,000	133,590	120,000	108%	前期実績並みの金額を計上
11	予備費(繰越)	3,802,732	3,838,702	2,814,711	135%	
	合 計	8,438,732	7,726,714	7,480,711	113%	

議案5. 令和5-6年度役員等(案)

名誉会長ならびに顧問

役職名	氏 名	現あるいは前役職	卒業年	研究室
名誉会長	東 信 行	学部長		
顧 問	豊 川 好 司	元学部長	昭38	畜産
	三 上 巽	元会長	昭42	農経
	一 戸 洋 次	前会長	昭43	土肥

役員（*新任者）

役職名	氏名	勤務先等	卒業年	研究室	
会長	高谷 清孝	公益社団法人あおもり農業支援センター理事長	昭57	育種	
副会長	赤平 次郎	青森県農林水産部農林水産部長	昭61	園利	
	熊谷 幸一	青森銀行ビジネスパートナー部業務顧問	昭57	土肥	
	野呂 文人	青森県農業協同組合中央会経営対策部長	昭61	作物	
監事	斎藤 寛	元弘前大学農学生命科学部	昭42	土肥	
	岩谷 健	相馬村農業協同組合 員外監事	昭56	農経	
支部	弘前	外川 吉彦	弘前市企画部長	昭63	経済
	東青	野呂 文人	青森県農業協同組合中央会経営対策部長	昭61	作物
	三八	腰巡 好之*	青森県三八地域県民局地域農林水産部農業普及振興室長	平元	育種
	西北	長内 昌彦	青森県西北地域県民局長	昭61	果樹
	上北	内山 俊二*	青森県上北地域県民局地域農林水産部長	昭62	水利
	下北	阿保 静孝*	青森県下北地域県民局地域農林水産部次長	昭63	経済
	山形	柴田 三郎	明光技研株式会社技術顧問	昭56	農地
	福島	鈴木 敦	福島県北農林事務所 農村整備部長	昭59	造施
中部農工	木下 雅公	静岡コンサルタント(株) 理事	昭55	造施	
評議員	工藤 明	元弘前大学農学生命科学部	昭47	水利	
	櫻田 隆夫	東北建設コンサルタント(株) 代表取締役	昭52	造施	
	泉 完	元弘前大学農学生命科学部	昭53	水利	
	野呂 明弘	NTCコンサルタント(株) 東北支社青森営業所長	昭60	水利	
	田中 満	青森県立五所川原農林高等学校	昭58	育種	
	坂田 裕治*	青森県産業技術センター理事長	昭58	作物	
	須藤 充*	青森県産業技術センター農林総合研究所長	昭62	作物	
	齋藤 知明	青森県産業技術センター弘前工業研究所	昭59	畜産	
	石澤 雅史	青森県土地改良事業団連合会常務	昭60	造施	
	對馬 嘉晴	青森県立弘前実業高等学校校長	昭62	果樹	
	成田 澄人	青森県農林水産部次長	昭63	園利	
	堀子 義人	弘前市議会事務局次長	平4	土肥	
	工藤 里実	青森県観光国際戦略局誘客交流課課長代理	平5	土肥	
	鳴海 純	自営(農業)	平6	果樹	
	澁谷 明伸	弘前市農林部農政課長	平7	農機	
	川辺 歩*	青森県農林水産部農林水産政策課主幹	平7	果樹	
	濱田 茂樹	弘前大学農学生命科学部	平9	生化	
	對馬 由記子	青森県産業技術センター野菜研究所	平12	植病	
田中 和明	弘前大学農学生命科学部	平15	植病(院)		
房 家琛	弘前大学農学生命科学部(金木農場)	平16	畜産(院)		
福田 和光	大鰐町役場 建設課係長	平19	地域環境		
小林 達	青森県産業技術センターりんご研究所	平24	園芸農学		
幹事	総務	松崎 正敏	弘前大学農学生命科学部	昭62	畜産
	情報	栗田 大輔	弘前大学農学生命科学部	平16	分子生命
	会計	成田 拓未	弘前大学農学生命科学部	平15	経済(院)

議案6. 弘前大学校愛会への参加について

浅利部長および工藤課長より、令和6年4月より入学生全員加入を事業としてスタートする弘前大学校愛会について、資料に基づき説明がなされ、既存の学部同窓会の本制度への参画について検討が依頼された。学生・卒業生とのネットワーク形成を語ることを目的とした同事業は弘前大学が主体となって寄付金および大学の予算で専任組織を設置して運営するとのことで、学部同窓会単位で参画する同窓会の会員は特別会員とする方針とのことで、寄付金や名簿の管理は同会の専任組織が行い、従前の学部同窓会の活動を予算も含めて支援するとのことである。種々、質疑応答の後、議長より、学部同窓会の単位での参加が提案され全会一致で承認された。当期中の令和6年4月からの校愛会発足、参画となり、本学部同窓会の規約の改正すなわち総会の開催が必要となるが、その規約案や総会開催方法については会長および事務局に一任されたいとの申し出があり、了解された。

その他の議案の提案はなく、予定された議案審議が終了し、総会は閉会となった。

令和5-6年度 同窓会臨時総会報告

令和5-6年度総会総会にて学部同窓会は弘前大学校愛会事業へ参画することが承認されました。それに伴い、規約の改正が必要となったため、令和6年2月に臨時総会（紙上開催）を行いました。規約の改正案を同窓会ホームページに掲載して意見を求め、承認されました。

弘前大学農学生命科学部同窓会規約

令和6年3月10日改正

- 第1条 本会は弘前大学農学生命科学部同窓会と称し、事務局を弘前大学農学生命科学部内に置く。
- 第2条 本会員を正会員、特別会員及び準会員とし、学部卒業生及び大学院修了生を正会員、母校教員、前教員（前教官）及び関係者を特別会員、在学生を準会員とする。
- 第3条 本会は母校の発展に積極的に寄与し、会員相互の連絡、親睦を図ることを目的とする。
- 第4条 本会の目的達成のため次の事業を行う。
- 1 会報の発行
 - 2 支部の設置
 - 3 会員情報の管理
 - 4 その他本会目的達成のため必要な事項
- 第5条 本会に次の役員を置く。
- 1 会長 会員中より役員会で推薦し、総会で決定する。
 - 2 副会長 同上
 - 3 監事 同上
 - 4 支部長 支部総会で正会員より選出する。
 - 5 評議員 総会で正会員中より30名以内を選出する。
 - 6 幹事 正会員中より若干名を会長が委嘱する。
- 第6条 役員の任務を次のとおりとする。
- 1 会長 本会を代表し会務を統理する。
 - 2 副会長 会長を補佐し、会長の代理をつとめる。
 - 3 監事 会計を監査する。
 - 4 支部長 支部を代表し、支部の事務をつかさどる。
 - 5 評議員 役員会を構成する。
 - 6 幹事 本会の会務を担当する。
- 第7条 役員の任期は次のとおりとする。
- 1 会長、副会長、監事、評議員及び幹事の任期は2年とする。
 - 2 支部長の任期は支部の決定による。
- 第8条 本会に名誉会長と顧問を置く。
- 1 名誉会長は学部長を推戴する。
 - 2 顧問は学部長及び正副会長の経験者から会長が本人の承諾を得て委嘱する。副会長経験者の任期は委嘱した会長の任期内とする。
- 第9条 総会の開催及び職務は次のとおりとする。
- 1 通常総会は隔年毎に開催するものとし、期日は役員会において決定する。
 - 2 臨時総会は役員会において必要と認められた場合に開く。
 - 3 通常総会においては次の事項を審議する。
イ 過去2年間の事業報告及び収支決算報告
ロ 今後2年間の事業計画及び収支予算
ハ 規約改正
 - 4 総会の議事は出席会員の過半数をもって決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
 - 5 議長は総会において出席会員中より選出する。
- 第10条 役員会の構成、開催及び職務は次のとおりとする。
- 1 役員会は会長、副会長、監事、支部長、評議員及び幹事をもって構成する。
 - 2 役員会は会長が招集し、本会の方針、会の改廃その他重要事項を審議し、これを総会に提案する。
- 第11条 本会の会計年度及び経費は次のとおりとする。
- 1 会計年度は4月1日から翌々年3月31日までの2年間とする。
 - 2 本会の経費は以下をもって充てる。
イ 校愛会への寄付金の一部
ロ 弘前大学からの支援金
ハ その他の寄付金
- 申し合せ事項
1. 学部中退者で希望者は正会員とする。

同窓生近況だより

生物化学教室昭和55年卒のつどい

2013年宮入先生の退官祝賀会後の集まりで、「いつお迎えが来るかわからないから、これから毎年5月第4土曜日に西弘前の『酔い処しゅう』に集合しよう」(コロナ禍で3年間できなかった)ということでこの会が始まった。今回は5月27日、宮入先生を含め10名の参加で飲んで、飲んで、また飲んで語り…。研究室での1年間、夏は男鹿半島キャンプ、冬は蔵王にスキー、昼休みはソフトボールやテニス等。夜は「しゅう」に飲みに行ったりと…楽しい思い出が相馬灯のように蘇る。生きていることを確かめ合い、来年(5月第4金曜日に変更)もまた会えることを願い一杯。



(後藤隆信)

「第12回弘前大学農学部農業工学科・昭和46年度卒同期会」開催報告

4年に一度の頻度で始まり最近では2年毎としていた同期会、2019年を最後にコロナ禍で途絶え4年の空白を経て今年7月1日久々に再開。参加者は同期38名中、北海道をはじめ東北各地から存命者の約半数15名、青森市内浅虫温泉での開催となりました。宴会冒頭故人6名を偲び黙祷、その後酔い乱れる前にと早々に集合写真を撮影、大学の同窓会事務局からのご厚意で提供していただいた「清酒弘前大学」で乾杯、好評のうちに杯が進み二本が瞬く間に消費される勢い、同窓会事務局には改めて御礼を申し上げます。その後、校歌斉唱にも挑戦、難なく全員が空で歌いきるものと思いきや、これがなかなかで、寮生活や部活動経験者は歌詞カードを確認しつつも、まあまあ無難に歌いきったものの中には口パクも散見…矢張り50有余年の年月は永い。



宴も進み、健康不調自慢や学生時代のエピソード・暴露話、欠席者の近況確認などに花が咲き、マイクなしで自慢の歌声を披露する者が出るなど大いに盛り上がり、部屋飲みの二次会が終了したのは宴会開始から5時間余り後のこと、74歳を超えた強者達の未だ衰えぬ実力を実感した誠に楽しい集いでありました。とは言え、いずれ避けて通れぬ老いの進行もこれあり、今後は健康確認のためにも毎年開催ということで全員一致、来年も揃っての再会を誓ってお開きとなったところでした。

(同期会幹事長 田中孝明)

弘大農工 昭和46年クラス会

今迄昭和46年（1971年）に農業工学科を卒業したクラス会を3年に1回弘前で開催して来ましたが、2年前に卒業後50年目に開催する予定でしたが残念ながらコロナの為開催出来ず、今年52年目にやっと開催出来ました。出席者は、16人（学科40人内4割）で結束力の固いクラスだと思います。殆どの方が後期高齢者になりました。同窓会から差し入れて頂いた日本酒「弘前大学」を味わいながら和やかに懇談することが出来ました。その後夜遅くまで、土手町界限で語り合い、また元気で会えることを約束し名残惜しくクラス会を閉じました。



（小野恒）

園芸化学科 昭和54年卒 同期会を開催

7年ぶりに第3回同期会を10月7日に百沢の「アソベの森 いわき荘」で開催しました。卒業して約半世紀！半世紀！です。今は退職引退しておりますが、仕事先は、本当に多種多様で、川上から川下まで、しまいには管轄官庁まで、。

当時みんな血の気の多い若者ばかりでした。会えばすぐ顔

と名前が一致します。そんなには、変わっていないのです。多少、髪が白くなったり、胴回りがとても成長？したり位で、、、とても有意義な一泊でした。

次回4年後は札幌が開催となりました。北海道組がとても多いのです。

楽しみです。みんな次回健康に再開する事を約束しあいました。

（幸田正美）



新企画

「弘大酒を囲んで同窓会！」

同窓会や出身研究室の仲間との飲み会などを企画する時が来ましたら、是非、同窓会事務局にご一報ください。会の様子の簡単なお報告やお写真を会報誌にご紹介いただくことを前提に、弘大酒をお送りいたします。参加人数が5名様以上の時は1本、10名様以上の時は2本（最大2本まで）を幹事様宛に送らせて頂きます。締め切りは設けておりません。出身大学のお酒を囲みながら懐かしい話に盛り上がりましょう。お待ちしております！



訃報

(2023年度中に事務局に連絡があった方)

元村佳恵 様 (元教授 生物機能科学科)

吉田 彪 様 (農学科 昭和31年卒)

山川信興 様 (農学科 昭和35年卒)

棟方晃三 様 (農学科 昭和38年卒)

佐々木秀博様 (農学科 昭和38年卒)

成田 昭 様 (農学科 昭和40年卒)

白石洋一 様 (農業工学科 昭和45年卒)

野村榮次 様 (農学科 昭和50年卒)

曲田純二 様 (園芸化学科 昭和58年卒)

今 司 様 (園芸化学科 昭和62年卒)

上記会員のご逝去の報が届きました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

事務局から

平成17-18年度総会で「弘前大学農学生命科学部同窓会における個人情報の取り扱いについて」が制定されました。支部会開催などで、会員情報が必要な際には「同窓生情報活用依頼書」を郵送でお送り下さい。様式は会報第23号(2005年6月1日発行)の10ページにあります。

同窓会ホームページ (<https://nature.hirosaki-u.ac.jp/dosokai/>) からダウンロードできます。

また、転勤や転居で住所が変更になりましたら、事務局までご一報ください。

同窓会事務局

〒036-8561 弘前市文京町3 弘前大学農学生命科学部同窓会

松崎 正敏 電話 0172-39-3804 E-mail mma@hirosaki-u.ac.jp

栗田 大輔 電話 0172-39-3592 E-mail dkurita@hirosaki-u.ac.jp

成田 拓未 電話 0172-39-3622 E-mail tnarita@hirosaki-u.ac.jp



最新の情報は同窓会ホームページでご覧下さい
(<https://nature.hirosaki-u.ac.jp/dosokai/>)